

特集

東野ならではのよさを生かした様々な行事
知っておきたい東野の歴史～独自の行政組織～



東野地域の詳しい予定をQRコードで見ることができます
東野の地域行事を動画で見ることができます。



まずつかみ



納涼夏祭り



昔を語り継ぐの
ページに移動



研修旅行



敬老会

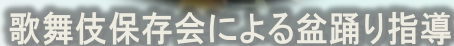
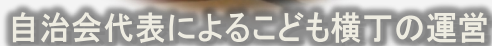


学校田稲刈り

東野の人口 1629人 男:834人 女:795人 662世帯

今年度4月1日との比較 総人口:+8 男:+9 女:-1 世帯数:+19

令和6年4月1日～令和6年8月30日の東野の出生数 男:2人 女:0人 (恵那市全体 86名)



表紙写真は今から約50年前の八坂神社の氏子の方々の様子です。若者や子供たちが数多く写真に写っています。青年団も婦人会も消防団も老人クラブも活発でした。子供たちも多くいて、子供会の活動も数多く行われていました。東野の住民も深くつながっていました。少子高齢化が進み、いくつかの組織や団体は解散しました。子供が少ない、若者世代の参加が少ない、住民全体の高齢化、独居暮らしの方が多くなっていることはこれから避けられない現実です。この現実を受け入れながら地域を発展させ、人々が目的を共有して「つどい」「つながり」「まなびあう」地域の取組みを住民の手で工夫していく事が地域のづくり成功の力ギになります。

納涼夏祭りの重要ポイント

地域の歴史的背景を考慮する

来訪者の誰もが楽しめる
場所をつくる

ターゲットに合った催し物を企画する

高齢化や人口減少を見据えた対応をする

みんなでつくった東野納涼夏祭り

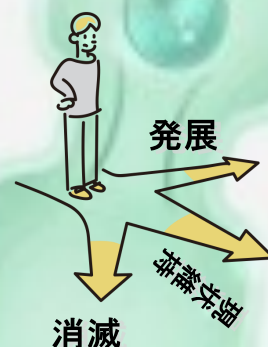
夜空を彩る花
火は来訪者が東
野の夜空を共有
すると共に、大
井町・長島町・
阿木地区などへ
のアピールにつ
ながつていた。

幼児への企画として東野おはなし会「ちんぷい」の読み聞かせ、来訪者全員が対象の東野を知るための「東野いろは歌〇×クイズ」、来訪者全員を対象にした「お楽しみ抽選会」は良かった。

協賛金賛同者による寄付金で打ち上げられた花火



開発振興会による大抽選会





東野小学校による創作ダンス



東野こども園育友会・東野小学校PTAによる

東野いろは歌〇×クイズ



東野おはなし会

「ちちんぷい」の読み聞かせ

東野音頭を来訪者全員で踊るために東野歌舞伎保存会の方々が踊りの手本を示したり踊るとお楽しみ抽選会の引換券がもらえたりするなど企画全体に「東野」をアピールする取り組みが行われていた。

地域の活性化につながる

新たな交流をつくり出す

住民同士の交流が深まる

地元へ帰省した人たちが懐かしく思える

8月10日(土)

東野地域の伝統を重んじ、誰もが楽しめ、

高齢者などが休むことが出来るベンチがたくさん用意されていた。

東野小学校の創作ダンスや各自治会の翌日のごみ拾いなど、多くの方が地域貢献できる場になる企画だった。

市役所職員の東野会や体育協会などの住民が店を出して行うのは会話が生まれ、単価も安く、以前から続く夏祭りの姿があった。

自治区の役員が「こども横丁」を運営して、安価で遊びや買い物を楽しめるコーナーを運営していた。

祭り翌日の地域の環境美化活動

東野体育協会や市役所東野会によるバザー



研修旅行

日時 9月14日(土)

研修先 三河方面

参加者 大人23名 高校生2名

中学生11名 小学生8名

合計 44名

動画
配信中



市民三学東野委員会と東野青少年育成会議の共催で三河へ研修に行きました。大人と高校生・中学生・小学生の参加者のバランスが半々になり、異年齢集団の交流と研修というねらい通りの企画になりました。岡崎城で家康と三河武士のことを地元ガイドに聞き、豊川稲荷で参拝、表参道で自由行動、最後は竹島水族館で生物を学びました。年に一度の格安の参加費で子供から大人までが一緒のバスに乗って出かける研修旅行です。今年は定員をオーバーする申込者でした。



ますつかみ

日時 7月27日(土)

午前9時30分～

場所 飯沼川

(中日サンクリーン前の広場)

参加人数 約140名

動画
配信中



東野青少年育成会議主催のますつかみが昨年に続き開催されました。新型コロナや悪天候で5年間途絶えていた企画が昨年に復活して、東野在住の子だけではなく、外孫なども参加して、昨年以上の約140名が参加しました。今年は晴れの日が続き、浅瀬が多くあったので、320匹のますがあつという間にすべて手づかみされました。多く掴んだ子の中には10匹以上つかんだ園児もいました。飯沼川を通じて郷土愛を育てる会、遠藤龍美さん、伊藤宮夫さんから寄付をいただきました。



宗久寺 しあわせ観音まつり

夏休みこどもお経の会

日時 8月25日(日)

こどもお経の会 夏休み期間中

場所 宗久寺



お寺は学ぶ場や集う場の発祥の地です。宗久寺では昔から続く「夏休みお経の会」が今年も行われました。8月25日(日)は檀家による手作りのしあわせ観音祭りが行われました。合唱、腹話術、ガマの油売りなどの出し物があり、子供対象のクイズやゲームがあり、地元の方々が安価で焼きそば、五平餅、フランクフルトなどを販売していました。綿菓子やポップコーンは無料で配られ、地域の祭づくりのお手本がここにありました。



小坂美江子さんの腹話術

桐山智子さんのガマの油売り

人々が集う場・学ぶ場・こどもをほめて育てる場、
伝承を引き継ぐ場、お年寄りが安心して楽しく過ごせる東野へ

恵那発明工夫展 受賞おめでとう

恵那市長賞

5年 伊藤誠真さん

「エコ湯沸かし器」

色のついたガラス瓶
などを使った湯沸機

努力賞

4年 鈴木吉太さん

「弟の椅子」

牛乳パックで工夫し
て作った椅子

努力賞

1年 篠原壮太さん

「ねずみとり」

竹を加工してネズミ
捕りを製作

掲示板

◆東野ふれあい音楽祭協力券
(チケット)発売中!

みんなで応援
しよう。

◆東野歌舞伎公演
10月14日(祝)

◆東野ふれあいスポーツフェ
スティバル (旧住民運動会)
10月27日(日)

地域毎に飲み物やおつまみを囲ん
でワイワイと話して交流する大事な
機会にしましょう。半日ですが、地
域毎に集まる唯一の日です。

◆東野文化祭作品展募集
9/30~10/12の期間
ふるさと写真、趣味など
で作ったものなど。

趣味の作品を多くの方に見てもらおう

学校田稲刈り

日時 9月12日(木)

場所 学校田

地域の方 5名

小学校4・5年 25名

動画
配信中



JAひがしみの農協東野支店の
建物の南側の学校田で晴天の
中、今年も学校地域共同活動と
して小学校4・5年26名と地
域の方々5人と先生で稲刈りが行
われました。鎌をもって手で稲
を刈り、稲架(はさ)に干して天
日干しをするところまでを行いま
した。今では見なくなった手
法ですが、昔の稲作を実際に子
供たちが経験することで、米作
りについての学習を深めること
ができていました。慣れている
児童は短時間で自分の列をやり
終えて、次から次へと他の列の
稲を刈っていました。



敬老会

日時 9月16日(祝)

場所 東野コミュニテ
ィセンター

出席者 45名

来賓 17名

動画
配信中



東野在住の80歳以上の220名
に招待状を出して、今年度の参
加者は45名でした。

東野開発振興会と東野自治連
合会女性代表が主催し、出席者
がカラオケを披露するという出
席者主体の内容でした。何人も
の方に見事な歌声を披露してい
ただき、東野には歌の上手な方
がみえることを再発見すること
ができました。衆議院の古屋圭
司議員秘書、県議会の水野正敏
議長、恵那市の小坂喬峰市長、
市議会の干藤安雄議長をはじめ、
17名の来賓の方が出席され
ました。



知っておきたい 東野の歴史

先人たちの残した地域の財産を生かして独自の歴史を歩んできた 東野の自治組織

東野村は江戸時代は岩村藩に属する一つの藩制村(江戸幕府・岩村藩が行った農民支配制度)でした。阿木川を隔てた正家(長島町)は尾張藩に属して豊かな村であったのに対して、東野は小さな岩村藩だったので、水利権など我慢しなければいけません。こうした東野近隣の地域との関係が東野の人たちの自治組織(行政組織)に与えた影響は大きいと考えられます。明治維新後の大区小区制、郡区町村編成法で東野が上下の二つに分かれたり一つに再びなったりした経緯をたどり、1888年の市制町村制で東野村が独立して1954年までの写真で示す14名が村長として東野の行政を行いました。

東野村歴代村長



17・19・20・21・25代
西尾 実



12代
土方 浅次郎



初代・13代
伊藤 善兵衛



18代
千藤 勲雄

熊沢庄作(村長庶務掌)

伊藤為治(村長代理)



2・4・6・8・10代
鈴木 銭次郎



22代
千藤 茂美



14代
永野 鈴吉



3・7代
依馬 源七郎



23代
篠原 兵衛



15代
長谷川 九十郎



5代
伊藤 貴祐



24代
遠藤 直三郎



16代
鈴木 順蔵



9・11代
長谷川 藤蔵

1954年 恵那市合併

1955年 東野振興会(のちの東野開発振興会)発足

恵那市合併の際、東野村会議員が草案を出し、設立総会を得て東野振興会を発足させました。そして、東野の財産(共有山)の運営を開始しました。1972年に東野生産森林組合を発足させて共有山の管理運営を委ね、生産森林組合などからの収入を水利組合、婦人会、消防団、老人クラブなどの各種団体に助成金として振り分けることを行いました。

共有林からの順調な収入

歴代東野振興会(開発振興会)会長は、南大門の丸山文憲さんの資料から

◆東野振興会発足時の役員選出の仕方(のちの東野開発振興会)◆

役員は理事10名・監事2名。その中より会長1名、副会長2名が選ばれ、任期は3年である。この10名の理事は2〜3の自治会からの互選とする。(昭和60年 成城大学文芸学部文化史学科田中ゼミナール資料より)

歴代東野振興会会長

初代 昭和30年 千藤 茂美

2代 昭和34年 千藤 源一郎

3代 昭和37年 土方 源十

4代 昭和40年 依馬 正直

5代 昭和42年 永野 宏逸

6代 昭和48年 水野 武夫

7代 昭和50年 渡辺 忠雄

8代 昭和53年 伊藤 公直

東野開発振興会(名称変更)



昭和53年5月4日落成式



昔の東野役場

9代 昭和56年 伊藤 弘美
10代 昭和59年 西尾 茂芳
11代 昭和62年 市川 盛道

昭和60年に成城大学文芸学部文化史学科田中ゼミナールが東野の民族を調査した資料によると東野の会員の年会費は一戸につき2万円。東野生産森林組合員については個人名義の寄付金として森林組合から直接、振興会に振り込まれるという制度でした。昭和59年の時代に振興費は約2000万円ということが記されています。しかし、森林組合に加入していない方は年間2万円の現金を納入しなければならないという東野独自の振興費の集め方が東野生産森林組合員ではない方が東野に住みづらくしていたことは確かでした。このことが「東野はよそ者を入れない。」という周囲の東野を見る言葉にもつながっていました。

共有林収入の減少



東野開発振興会の転機

共有林の利益が減少して、生産森林組合員であるかにかに関わらず一戸2万円ずつを会費として集めるようになりまし。森林産業からの利益を東野地域に還元するねらいで東野振興会(のちの東野開発振興会)が設立されましたが、東野開発振興会を解散することなく、会費の金額を見直しながら現在も開発振興会を存続して住民による自主・自立の地域自治を行っています。平成31年に新たに恵那市独自の地域自治条例が制定されて5年が経ちました。条例制定後に東野地区では、住民の会費で行っている東野独自の開発振興会と恵那市が定めた東野地域自治区運営協議会・東野自治連合会など、組織が複雑な形で関係し合っており、自主・自立の地域自治を行っています。

東野の地域性を生かす

冒頭に東野は岩村藩の藩制村だったということを書きました。東野村は川を挟んで大きな尾張藩と接していましたので我慢をしいたげられていました。こうした中で山林をはじめ地域産業を興して明治以降に豊かな村へと成長しました。

今は上の写真のように川を挟んだ恵那市の中心部から近く、商業施設からも近いことが魅力です。東野を上空から見た写真を見ると田畑である黒い部分と山林が多くあります。この地の利を生かして今後の開発ができる可能性があるということです。

役員選出の仕方

ある時期の8年間は特例として互選の記録が残るが、東野開発振興会会長職は昔の東野村長という位置づけがあり、基本的には選考委員会で決定している。

恵那市の地域自治条例の経緯

12代	平成2年	足立 幸造
13代	平成5年	古山 和郎
14代	平成8年	篠原 佳昭
15代	平成11年	千藤 尚徳
16代	平成14年	伊藤 明
17代	平成17年	千藤 恵三
18代	平成20年	遠藤 龍美
19代	平成23年	伊藤 顕
20代	平成26年	伊藤 常光
21代	平成29年	丸山 文憲
22代	令和2年	岡本 光美
23代	令和5年	保母 鎖利

◆平成17年 恵那市地域自治条例制定

◆平成18年 各地域にまちづくり実行組織を設置 地域づくり補助金制度創設

◆平成27年 恵那市地域自治区代表者会議を設置

◆平成28年 地域自治区に会長他役員を設置、運営委員会の設置を規定 恵那市自治区会長会議を設置

◆平成31年 地方自治法に基づく地域自治区廃止 恵那市独自の地域自治区条例制定

◆恵那市独自の自治条例

◆恵那市地域自治区活動交付金要綱



防災訓練は中止になりましたが、

地震に対する備え ～家庭での備蓄について～

・地震が発生すると普段どおりの生活ができなくなる事も考えられますが、家庭に食料等の備蓄があれば安心です。目安として最低限3日程度、できれば1週間分の水や食料品は備蓄しましょう。

・賞味期限などと照らし合わせて定期的にチェックし、ローリングストックを行いましょう。

※「ローリングストック」とは、普段自宅を利用してものを少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品等が家庭で備蓄されている状態を保つための方法です。

まず・・・
これだけは備えましょう!!



東野デポの利用について

資源の循環とごみの減量、地域還元を目的に新聞紙、雑誌、雑紙、ダンボール、アルミ缶の回収拠点を東野コミュニティセンター駐車場に設置して「東野デポ」の名称で地域のみなさまにご利用いただいております。資源販売による奨励金は、地域や東野小学校、東野こども園で活用されています。

【ご利用時のお願い】

◎新聞、雑誌、段ボールは、『紙ひも』で縛って出してください。



◎段ボールはガムテープなどを取り除き、紙ひもで縛って出してください。



つぶしていない、縛っていないなど、そのまま出さないでください。



ビニールひもでは縛らないでください。

昨年と今年度の東野デポの利用状況の比較

月	令和5年度		令和6年度		前年度との増減	
	合計重量(kg)	収入金額(円)	合計重量(kg)	収入金額(円)	重量の差(kg)	収入の差額(円)
7月	1060	7630	1840	11660	780	4030
8月	1466	10280	1362	11630	-104	1350

※品目の単価により、重さだけでは収入金額が総重量と整合しません

「もったいない」から「ありがとう」へ

ご家庭にある「食べられるけれども、使わない食品」を必要な方へお届けするためのフードドライブポストを東野コミュニティセンターに設置しています。

集められた食糧品は社協東野支部を通して、恵那市社会福祉協議会より、食糧を必要としている方へ届けられております。皆さまからの提供をお待ちしております。



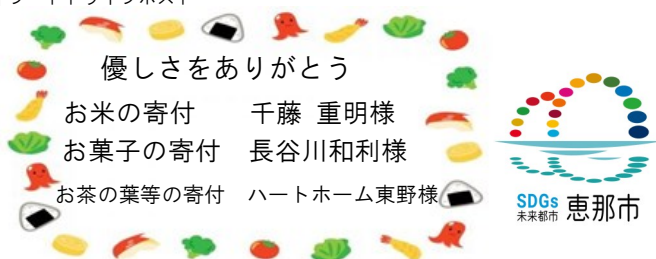
東野コミセンに設置
フードドライブポスト



恵那市社会福祉協議会



ふれあい弁当づくり



恵那の食・芸術・文化の祭典のご案内

とき：令和6年11月17日（日）

場所：恵那文化センター

恵那市公式サイト



「東野ポン！菓子」として出店します。各種団体の文化の祭典も開催されます。ご来場をお待ちしております。



食文化の紹介及び販売

おいしいものいっぱい！恵那の郷土食、発酵食、ちーオシに関連した食が大集合！

時間 10:00～15:00

場所 駐車場

ちーオシとは…各地域の推しのこと。

東野はポン菓子の実演、販売

